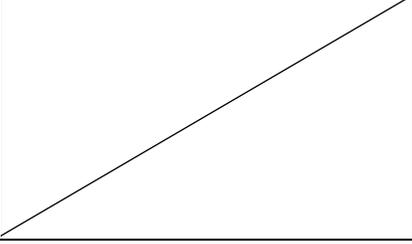
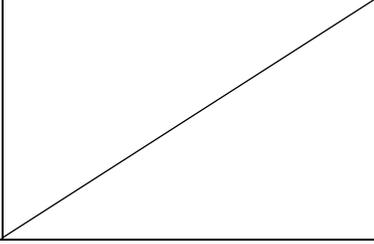


教育相談事業

項目	用語解説	資格等	現状
P108 1 心の教室相談員	生徒の悩み、不安、ストレスに対し、悩み等を気軽に話せ、ストレスを和らげることを目的に、各中学校へ配置した相談員	資格は特になし ・葉山中学校:1名 週あたり16時間(週3日) ・南郷中学校:1名 週あたり10時間(週2日)	相談実績 (R5. 4月～1月) 相談のべ件数 葉山中学校170件 南郷中学校313件 合計483件
2 児童・生徒の諸問題に係る ケースカンファレンス	学校生活等で困り感のある児童生徒について、ケースに応じて適宜集まり、支援の手立てを協議する。	・学校教育課・子ども育成課・児童相談所・SC・SSW 等約 10 名	各校のケースに応じて適宜開催している。
P108 3 支援教育推進 アドバイザー	葉山町支援教育推進指針に基づき、葉山町の支援教育について話し合う際に、助言等をいただいている。	有識者1名	関東学院大学特命教授 R5 23,000 円×3回
P108 3 生徒向け法教育	中学校生徒対象に、弁護士が法律に関わる事案を通して、生徒と共に考えていく授業 ※内容等については事前に各校担当者と弁護士とで相談のうえ決定する。	弁護士 各中学校1名	対象学年:中学1年生 10,000 円×1時間×1回
P108 4 スクールカウンセラー	さまざまな悩みや困り感(いじめ、暴力、不登校等の問題行動や、発達の課題、精神科領域の問題、家庭環境や親子関係の課題等)について、児童・生徒、保護者、教職員に対し、カウンセリングやアセスメント(情報収集・見立て)、コンサルテーション(専門家による指導・助言を含めた検討)等を行う心理の専門性を有した者	資格:臨床心理士 各中学校県費1～2名 週あたり1～2日 各小学校町費2名+県費3名 ひと月あたり1～2回	相談実績 (R5. 4月～1月) 相談のべ件数 小学校 615 件 中学校 185 件 合計800件

<p>P109 5 葉山町いじめ問題 調査会</p>	<p>学校におけるいじめ問題につき教育委員会の諮問に応じて当がいじめ問題に係る事実関係を調査審議し、その結果を答申し、又は意見を建議する会議 (「葉山町いじめ問題調査会の設置に関する規則」第3条より)</p>	<p>大学教授・弁護士・医師・社会福祉士・児童心理士 各1名</p>	<p>調査会の委員の顔合わせとして毎年5月に開催。それ以外に、いじめ問題調査会にて調査が必要な場合は、必要に応じて招集している。</p>
<p>P109 6(教育研究所) 教育相談員</p>	<p>いじめ,不登校, 暴力行為, 学習進路, 家庭環境, 友人異性, 非行, 身体健康, 発達などについて、保護者・児童生徒・教職員から電話、来所による相談を受ける相談員。場合によっては、学校巡回を行っている。</p>	<p>公認心理師・臨床心理士・学校心理士・学校教育及び教育相談の分野に意欲がある方 葉山町教育委員会 非常勤職員1名</p>	<p>相談実績 (R5. 4月～1月) 相談のべ件数 1021 件</p>
<p>P109 6(教育支援教室ヤシの実) 教育相談員</p>	<p>主に不登校に関する相談を受ける相談員で、教育支援教室(ヤシの実)に勤務する相談員 WISC-V 検査等を実施する</p>	<p>資格: 公認心理師、臨床心理士、学校心理士 教育支援教室 1名 R5…週2日勤務 R6…週3日勤務</p>	<p>相談実績 (R5. 4月～1月) 相談のべ件数 91 件</p>
<p>P109 7 知能検査を行う機器</p>	<p>WISC (ウィスク) 検査 「言語理解」「知覚推理」「処理速度」「ワーキングメモリー」の4つの指標と IQ(知能指数)を数値化する検査。その子の「得意な部分と苦手な部分」から「その子にとってより良い支援の手がかりを得る」ことを目的として行う検査。</p>		
<p>P107 特別支援教育支援員</p>	<p>学習支援や基本的な生活習慣確立のための日常生活上の支援を行う。 支援の対象: 特別支援学級在籍児童生徒、通常級で支援が必要な児童生徒、リソースルーム(仮名)の児童生徒</p>	<p>資格: 特になし(学校教育に意欲のある方)</p>	<p>各小中学校 4～8名程度配置</p>